

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立九条幼稚園

令和 7 年 3 月

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立九条幼稚園 学校協議会

1. 総括についての評価

今年度の目標達成状況から、自己評価結果は妥当である。

全ての取組について、保護者アンケート結果が、今年度の目標値を大きく超えて達成しており、幼稚園の取組の充実と、その発信の成果だと評価できる。

2. 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○今年度末の保護者アンケートにおいて「子どもは、挨拶の大切さを知り、挨拶をするようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○達成状況の評価に関して妥当である。保護者アンケートは、肯定的評価の割合が96.5%であり、引き続き評価の維持に努める必要がある。

・様々な人に挨拶をする機会をつくってきたことで、挨拶をすることが定着し、進んで挨拶をしたり、話をしたりしている。人と関わる基本となるものであり、今後も、場に応じた挨拶をする経験を重ねて、いろいろな人とのふれあいを深めたり、親しみを感じたりすることにつなげてほしい。

・長期休業中のあいさつカレンダーや、学期ごとのあいさつアルバムを配布していた。引き続き、保護者の協力を得て、大人も子どもも挨拶をするようにして行ってほしい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○今年度末の保護者アンケートにおいて「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。

○今年度末の保護者アンケートにおいて「子どもは様々な食べ物に興味・関心をもつようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

○達成状況の評価に関して妥当である。保護者アンケートは、肯定的評価の割合が100%と96.5%であり、引き続き評価の維持に努める必要がある。

・様々な活動、遊びの中にある「体を動かす姿」を丁寧に見ながら、活動を工夫していたことで、自分から体を動かして遊ぶ姿が増え、寒い時期になっても、進んで戸外に出て体を動かし、楽しんでいる。今後も、一人一人の実態や生活に即した指導を工夫して行ってほしい。

・「つくってみたよ、食べてみたよ！カード」を、収穫物を持ち帰る度に配布し、家庭での調理や、子どもの様子について記入後、提出してもらい、掲示するなどして発信した。家庭での工夫、幼児の様子などがよくわかり、今後もいかしていきたい。引き続き、発達段階にあったわかりやすく興味をもちやすい保健指導や、保護者との連携を大切にしながら、取組を工夫して行ってほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○教職員アンケートで、「ゆとりの日の適切な設定や、負担軽減の工夫などにより、教職員が働きやすい環境を整備している」の項目について、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

○教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

○達成状況の評価に関して妥当である。アンケートは、肯定的評価の割合が 100%であり、引き続き評価の維持に努める必要がある。

・「ゆとりの日」の周知徹底により、前年度より平均時間外勤務時間が減少している。今後も見通しをもった運営を心掛け、教職員が前向きに充実感を感じながら、教育活動に取り組めるようにして欲しい。「コドモン」の活用を工夫し、保護者にとっても使いやすく、教職員の負担も軽減できるように取り組んでいくとよい。

・多くの研修、研究活動に参加しているのを、教職員みんなのものにして、充実して欲しい。

3. 今後の学校運営についての意見

○今年度の取組の成果が、子どもたちの様々な姿から見られ、保護者評価も高かった。これからも、市立幼稚園の良さである「好きな遊びを大切に、総合的にバランスよく生きる力を育てる教育」を大切に頑張ってもらいたい。

○引き続き、ホームページや、日々の担任からの話などの口頭、あるいは掲示物など、様々な手段で、保護者の理解を深め、地域にも広く発信して欲しい。

○園内の異年齢交流に加えて、様々な人と関わる経験を重ねて、いろいろなことを感じ、学べるようにして欲しい。

○今後も、教職員が連携しながら、子どもたち一人一人を大切にしたい教育活動を推進することに期待する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○様々な予測困難な状況の中、幼児や保護者の安全への意識向上を目指し、教職員も想定される災害や緊急時に備えた訓練と共通理解を繰り返しながら、突発的な状況に対応できる力をつけていくことが重要であると考えます。

○幼稚園では、安心・安全な教育環境のもと、幼児を取り巻く人的・物的環境を整え、一人一人の子どもの実態に応じた保育を行っている。その教育内容について、保護者を中心として、より広く分かりやすく発信していくことが、地域に開かれた幼稚園運営のために必要である。より充実した保育内容の発信を工夫していきたい。

○幼児は、様々な直接体験を通して興味や関心をもち、友達と関わりながら遊びを楽しんでいる。幼児の心を動かす環境の工夫や保育内容の充実のため、活動のねらいや保育内容についての振り返りを丁寧に行い、教職員同士の共通理解を図り、幼児がより興味や関心を高め、主体的に活動できるようにしていくことが重要である。

○これまで手作り教材を活用した保健指導の工夫を継続してきたことで、幼児、保護者ともに健康への関心や意識が高まってきている。今後も、幼児の健康的な生活への関心を高め、良質な生活習慣の定着につないでいきたい。そのためにも、幼児の発達段階に合わせた保健指導の工夫と、保護者への発信が、さらに必要であると考えます。

○様々な人と交流する機会をもてるようになってきた。様々な人との交流は、相手に親しみや憧れの気持ちを感じたり、優しく接しようとしたりするなど、幼児の人と関わる力の育成において、大きな成果をもたらすものである。そこで、交流活動をさらに工夫していきたい。少人数であることを生かして、園内の人的交流の充実も図っていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末の保護者アンケートで、「子どもは、幼稚園に行くことを楽しいと思っている」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、遊びを中心に直接体験を大切にした教育活動に取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもの発達段階に合わせて、健やかな体を育む指導をしている」という項目において、「肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の保護者アンケートで、「幼稚園は、様々な連携や交流活動を工夫している」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは、挨拶の大切さを知り、挨拶をするようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか?」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。

○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは様々な食べ物に興味・関心をもつようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○教職員アンケートで、「ゆとりの日の適切な設定や、負担軽減の工夫などにより、教職員が働きやすい環境を整備している」の項目について、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

○教職員アンケートで、「研修等への参加や振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

○保護者アンケートにおいて、全ての項目について、肯定的な評価を得ることができた。今後もそれを維持していく。教育内容充実のため、評価を次に生かしながら、取組を工夫していく。

○幼児の興味や関心を生かして、働きかけを工夫することで、繰り返し遊んだり、夢中になって遊んだりしながら、自ら体を動かすことを楽しむ姿につながった。「体を動かす」という視点で、遊びを分析する中で、様々なことが幼児に育まれていることが改めて明らかになったことは大きな成果である。遊びの中で育まれていくことや遊びの中の学びについて、今後も幼児の姿から読み取り、小学校以降の教育につないでいきたい。

○給食や栽培活動を通した食育の推進には、保護者の協力が大変大きかった。今後も、保護者と協力しながら、幼児の健やかな体づくりに取り組む。今年度得た成果を、次年度以降にいかし、地域へも発信していきたい。

○地域に開かれた幼稚園運営のため、教育内容について、保護者を中心に、広く分かりやすく発信するため、ホームページを活用した。一方で、降園時に直接話ができる本園の良さを生かし、口頭で、時には実物を提示しながら取組について伝えた。今後は、働き方改革と並行して、簡素化、効率化を図りながら、伝えたいことを、よりわかりやすく発信するよう工夫していく必要がある。

○教職員が積極的に研修・研究活動に取り組んだことは、資質向上や教育内容の充実につながった。今後も学び続けながら、さらなる取組の充実に努める。

○今後も小規模園の良さを生かし、異年齢児交流活動をはじめ、様々な人と関わり、親しみを感じ、認め合えるような活動を工夫し、人と関わる力を育んでいきたい。

大阪市立九条幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは、挨拶の大切さを知り、挨拶をするようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2、豊かな心の育成】 場に応じた挨拶を知り、挨拶の大切さを感じられる活動を工夫する。	A
指標 ・場に応じた挨拶を知り、様々な人に挨拶をする活動を月に1回以上行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは、挨拶の大切さを知り、挨拶をするようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

【取組内容】について

○取組内容①

・令和6年度後期保護者アンケートにおいて、「子どもは、挨拶の大切さを知り、挨拶をするようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が96.5%であった。

〈4月〉

・入園、進級時に、「おめでとうございます」「ありがとうございます」と、園生活に期待をもって、特別な挨拶に親しんだ。

・4歳児はな組では、『おひさまきらきら』『ぱん！ぱん！ぱん！』『きょうも元気！』など、様々な挨拶の歌を4月からずっと歌ってきた。口ずさみながら、歌詞にある挨拶の言葉を楽しんだ。

・給食調理員に、担任と共に「ごちそうさまでした」とお礼を言うことを重ねるうちに、自分から「ありがとう」「ごちそうさまでした」「おいしかった」「全部食べた」と、挨拶をしたり、話したりするようになった。その後、調理員に、2、3学期の行事を見てもらう機会をもち、日々の交流を深め、更に心のこもった挨拶を、自らす姿につながった。

〈5月〉

・西区種花事業で、西区緑化会の方や区役所職員と、一緒に種をまいたり、植え替えの仕方を教えてもらったりする機会を1、2学期で4回もった。回を重ねるごとに親しみの気持ちが増し、お礼に園で採ったヒモトウガラシを「幼稚園で採ったよ」「おいしいよ」と手渡したり、帰られるときに「さようなら」「ありがとう」「また来てね」と、自分から声をかけていつまでも名残惜しそうに見送ったりする姿があった。

・検診、発育測定の際、教師が繰り返し言葉をかけながら、挨拶をする経験を積み重ねることで、園医や養護教諭に「お願いします」「ありがとうございました」と、挨拶するようになった。

〈6月〉

・中学生の職場体験の際には、幼児が進んで自分の名前を紹介したり、「お名前何ですか？」と尋ねたりするなど、様々な人と関わる嬉しさ、楽しさを感じ、それが挨拶や話すことにつながっていた。

・月1～2回の未就園児園庭開放では、未就園児たちが遊べる遊具は何かを考えて用意し、目線を合わせて、「おはよう」「名札どうぞ」などと話しかける姿が見られる。帰るときは、「バイバイ」「また遊ぼうね」「お手紙どうぞ」「名札はこっちです」と言いながら、見送っている。

〈7月〉

・新任教員研修で他園の教師が園に来た際、自ら名前を言ったり挨拶をしたりしていた。園を訪れる様々な人と関わろうという気持ちが育ってきている。

・1学期に子どもたちが様々な人とふれあい、挨拶をしていた様子を保護者に知らせるために、「あいさつで振り返る1学期 あいさつアルバム」を作成、配布した。

〈8月〉

・夏季休業中の取組として、様々な挨拶のうち、1日に2つ以上挨拶をしたら色を塗る「あいさつカレンダー」を第一学期終業式に配布し、第二学期始業式に回収した。多くの子どもが全て色塗りをしており、保護者のコメントから、家族や、外出先で出会った人にも進んで挨拶をしていた様子が見えた。

・5歳児そら組は、地域の方に、幼稚園で採れたタマネギや、ビワ、秋には芋掘りですったサツマイモなどを届けに行った。その際、「いつもありがとう」「幼稚園で採れてん」「おいしいよ」など、自分で考えて伝える姿があった。以前、地域の方がミカンの木についてアオムシを持って来てくれたことや、公園をいつもきれいに清掃してくれているのを見ている経験から、「いつもありがとうございます」という言葉が、自然に発せられる様子があった。

〈9月〉

・9月の「Let`s Play! なつまつり!!」では、お店屋さんをしたり、保護者の方が用意してくれたコーナーを回ったりして楽しい時を過ごし、最後はみんなで、保護者の方に「ありがとうございました」と、気持ちを込めてお礼を言うことができた。

・園外保育で、バスの運転手に名前を覚えてもらい、「お願いします」と言ったり、降りるときに、自分から「ありがとうございました」と顔を見て言ったりする姿があった。

〈10月〉

・大阪市立幼稚園音楽会で、以前カブトムシの幼虫をくれた別の市立幼稚園の5歳児と会えた。もらった時に、オンラインで映像をつないで、お互いの顔を見て礼を言ったが、画面越しに話した友達と実際に会えたことで、「まつ組さんや」「こんにちは」「幼虫ありがとう」と挨拶を交わし、「大きくなったよ」と喜んで話す様子が見られた。

・五校園音楽交流会では、近隣の小、中学生と、「こんにちは」「さようなら」「またね」と挨拶を交わし、親しみを感じているようだった。九条北小学校の児童や教職員に「今度、凧揚げに行くね」と言ったり、会場校の九条南小学校の教職員に、自分から「ありがとうございました」とお礼を言ったりするなど、進んで挨拶をする様子が見られた。

〈11月〉

・5歳児には、地域の茶道の先生に来てもらう機会をもち、11月から2月まで、月1回お茶遊びをした。わかりやすく、座礼、立礼の方法について実践を踏まえて学ぶと共に、挨拶をする気持ちよさや大切さについても教わった。目を見て挨拶をしたり、立ち止まって丁寧に挨拶をしたりする習慣が身についてきた。

〈12月〉

・2学期に子どもたちが様々な人とふれあい、挨拶をしていた様子を保護者に知らせるために「あいさつで振り返る2学期 あいさつアルバム」を作成、配布した。

・年の暮れには「よいお年を（お迎えください）」と、挨拶することを知らせたところ、園内の友達のお家の人や、来園者に、地域に出かけた際には、地域の方に、自分から楽しんでその言葉を使った。

〈1月〉

・冬季休業中にも「あいさつカレンダー」を配布し、夏季休業に続いて、家庭での協力を

得ながら取り組みを継続した。多くの子どもが全て色塗りをしており、保護者のコメントからは、園で知った「よいお年を」や正月の「あけましておめでとうございます」という特別な挨拶を、自分から家庭内や、出かけた先で会った人に行っていたことがうかがえた。

〈2月〉

- ・5歳児は幼小交流で小学校を訪問し、1年生とふれあった。遊びを教えてもらったり、声をかけてもらったりしたことで、小学校生活に期待をもって、「ありがとうございました」「またね」「(小学校に行ったら) よろしくお願いします。」と、挨拶を交わすことができた。

- ・「親子で KAPRA ワークショップ」「サッカー遊び」「みどりの一歩事業」と様々な分野の講師と関わる機会を設けた。「おもしろかった。ありがとうございました」「また、来てください」「いろいろなことを教えてくださってありがとうございました」など、考えてお礼を言う子どももいた。

〈3月〉

- ・5歳児は修了に向け、周りの人への感謝の気持ちをどう言葉にするかを考えることが増えてきた。感謝の気持ちをもって、保護者や、教職員、給食調理員などに挨拶をする機会をつくる予定である。

- ・4歳児も、5歳児にお祝いの気持ちをどのように表すか考えながら、お別れ会を計画した。プレゼントや招待状に「そらぐみさん、ありがとう」「小学校 頑張ってるね」「忘れないでね」など書き、手渡す際にも、自分なりに考えた言葉を伝えていた。これまで、優しくしてもらった経験や嬉しさ、一緒に遊んできたことからの親しみなどがあることで、自分なりの言葉、挨拶をすることにつながっていた。

- ・1年を通して、様々な人に挨拶をする機会を設けることで、挨拶を交わすことが定着し、場に応じた挨拶をするようになった。挨拶をすることで、出会う人に親しみを感じて、ふれあうことに喜びを感じるようになった。

次年度への改善点

○挨拶をする、しようとする気持ちを育み、挨拶は大切であるということを感じられるように、今後も、人と出会い、ふれあう経験を積み重ねられるよう工夫する。

大阪市立九条幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 【学校園の年度目標】 ○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか?」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 ○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは様々な食べ物に興味・関心をもつようになってきましたか?」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】 【基本的な方向5、健やかな体の育成】 様々な活動や遊びの中で、体を動かす楽しさを味わえるような働きかけを工夫する。	A
指標 ・体を動かして遊びたいような環境構成や働きかけについて、「大阪市就学前教育カリキュラム」を参考に、週一回以上検討会や振り返りをする機会をもつ。 ・週に1回以上、音楽に合わせて、体を動かす楽しさを味わえるような活動を取り入れる。	
取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】 食に興味・関心をもてるような取組を工夫する。	A
指標 ・幼稚園の食育の取組について、ほけんだより・ホームページ・掲示物などを用いて学期に1回以上発信する。 ・食に興味や関心をもてるような指導を月1回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか?」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。 ○令和6年度末の保護者アンケートで、「子どもは様々な食べ物に興味関心をもつようになってきましたか?」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。
【取組内容】について ○取組内容① ・令和6年度後期保護者アンケートにおいて、「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか?」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が100%であった。 ・週案を立てる際に、幼児の様子を振り返りながら、どのような教育的意図をもった働きかけが必要か、大阪市就学前教育カリキュラムを参考にして担任で話し合った。幼児の興味や関心、実態を踏まえて検討したことで、事後の保育の見通しをもち、環境構成や教師

の関わりなどを工夫することができた。

- ・教材研究を進め、幼児の興味や関心に合った遊び方や用具などを工夫した。『幼稚園新任教員研修会』の研究保育を自園で行い、「大阪市就学前教育カリキュラム」を参考にしながら、幼児が体を動かすことを楽しめる環境や関わりを、より具体的に検討し、新任教員と一緒に、学びを深めた。当日を迎えるまでも、繰り返し検討会をもち、保育指導案を作成することで、改めて関わりや環境構成について考えることができた。

- ・週に1回以上、異年齢と一緒に体操やダンス、ふれあい遊びを行ったり、各クラスでも体操やダンス、手遊び歌などを積極的に取り入れたりした。『こいぼり体操』や『だるまさんがおどった』『ペンギンのプール体操』『お風呂屋さんに行こう』『エビカニクス』『おでんぐつつ体操』『ラーメン体操』『温泉体操第一』など、幼児が興味をもつと思われるその時期に合った体操やダンスを行った。誕生会には『あたまであくしゅ』『ぎゅうぎゅうともだち』などのふれあい遊びを親子や異年齢で行い、生活発表会では、『白熊のジェンカ』『こすれこすれ』を異年齢のペアで行った。いろいろな体操やダンスを楽しんできたことで、自分たちで音楽をかけ、異年齢児同士で見せ合ったり教え合ったりして一緒に遊んでいる。「次はこの曲がいい」と自分たちでリクエストして、体を動かすことを楽しむ姿がある。

- ・土粘土遊びでは、全身を使って遊ぶことを楽しめるように、幼児の様子を見て量を増やした。教師も一緒に裸足になって遊びを楽しむことで、山のように積み上げたり、島のように広げたり、穴を開けたりするなど、全身を動かしてダイナミックに遊ぶ姿につながった。他にも水鉄砲やウォータースライダーなど、水とふれあいながら、より意欲的に体を動かして遊ぶ環境も整えた。水に親しみをもてたことから、プール遊びでも積極的に体を動かして遊ぶ姿につながった。

- ・1学期の保育参観で、4歳児は保護者と一緒に新聞ボールをつくり、そのボールを使って継続して遊んだ。ボールに持ち手を付けたことで、投げたり回したりなど、遊び方も広がった。天井から斜めに垂らした大きなビニールに投げてキャッチしたり、ビニールを超えるように天井まで投げたりなど、投げ方もいろいろと考えたり試したりしていた。2学期には、夏季休業中のオリンピックの新聞記事を切り抜いて貼ったり、競技を動画で見たりしたことで憧れや意欲をもって、オリンピックごっこが始まった。手作りボールの持ち手に、さらにゴムひもを付けたことで、サッカーやバスケットボール、バレーボール、ハンマー投げなどの遊びが広がった。他にも、新体操のリボン棒や、新しい競技のブレイキンにも、興味をもった。それぞれの競技の雰囲気合った曲を流すことで、自分なりにダンスをしたり、ポーズをとったりするなど、体を動かすことを存分に楽しんだ。

- ・パラバルーンに興味をもった5歳児たちが持って振ってみたり、中に入ってみたりして全身を使って体を動かすことを楽しんだ。様々な曲に合わせて自由に表現できるようにした。パラバルーンを持ち、動かしながら飛んでみたり、寝転んでみたり、回ってみたりしながら、音楽に合わせて大きく体を動かして楽しんだ。

- ・5歳児は運動会でソーラン節に取り組んだ。子どもたちと曲を繰り返し聞き、どんな動きやポーズが曲に合っているかを一緒に考えた。腰をしっかり落としたり、指先まで力を入れたりするなど、音楽に合わせて、体を大きく力強く動かすようになった。魚になって表現するところは、なりたいものになって、様々な動きを楽しむ姿が見られた。他にも音楽に合わせて釣り竿を大きく振って動かしてみたり、遠くまで届くように大きく動いて振りかぶったりして、体を存分に動かしていた。手作りの樽太鼓を用意すると、曲に合わせて自分なりに叩くことを楽しむ姿が見られた。園庭で太鼓を叩いてみると、保育室のときより大きな力で叩かないと聞こえにくいことに気づき、体を大きく動かして太鼓を叩くようになっていった。

- ・リレー遊びは、異年齢で関わりながら少しずつルールを変えながら楽しんだ。最初はバトンを渡して交代しながら、何週も走るエンドレスリレーを楽しんでいたが、徐々にチームに分かれて速さを競うようになっていった。ビブスを用意すると、友達と考え合って、2つに分かれてチーム戦をするようになった。更に楽しさが増し、友達と誘い合って、自分たちで人数を調整するなどしながら、繰り返し遊んだ。運動会後も繰り返し遊び、4歳児にもルールを知らせて一緒に遊ぶ姿が見られた。

- ・保護者参加の「親子ふれあい遊び」を開催した。講師のギター演奏に合わせて体を動か

すことを楽しんだ。保護者アンケートにも「子どもと一緒に体を動かすことがとても楽しかった」「親子で体を動かす機会があまりないため、いいきっかけがもらえて嬉しかった」などの意見が多く、今後の子育てにもつながる活動になったようだった。

- ・成人教育講座で「親子で KAPLA ワークショップ」を行った。崩れないよう注意しながら静かに積んでいくなど、力の入れ加減を工夫したり、立ったり座ったりして組み立てるなどして、体の動かしながら繰り返し遊んだ。

- ・なわとびは、何回跳んだかをかくメダルを作ったり、表を作ったりできるようにした。目で見えるよう記録することで、そのこと自体を楽しむだけではなく、もっと跳びたいという意欲につながり、何度も挑戦しようとする姿が見られるようになった。大縄跳びでは教師も一緒に遊び、いろいろな遊び方を認めたり、周りに知らせたりすることで、一人で跳ぶだけではなく、複数人で同時に跳んだり、大縄の中で短縄を跳んだり、ホッピングで跳ねながら跳んだりして様々な遊び方でなわとび遊びを楽しむようになった。少しずつ難しい跳び方を考えることで、何度も繰り返し遊びたいと思うようになったと考える。

- ・サッカーのコーチにボール遊びを教わった。年齢に合わせた指導を受け、ボールを蹴ったり追いかけたりして、ボール遊びやサッカー遊びをクラスの友達と一緒に楽しんだ。存分に体を動かして遊んだことが楽しかったようで、翌日から友達を誘い、一緒にボール遊びを楽しんでいる。

- ・毎日の降園時の連絡や、幼稚園ホームページ、学期末の幼稚園だより、クラスだよりなどを利用し、体を動かすことを楽しむことの大切さについて、保護者へも発信した。運動会や親子ふれあい遊び、参観などの機会を通して、体を動かす楽しさを味わっている幼児の姿を、実際に見てもらうことができた。

- ・1年を通して体を動かして遊ぶことに重点を置いて取り組んできたことで、寒い時期でも、自ら戸外に出て体を動かし、ボール遊びやなわとび、かけっこなどの遊びを楽しむことができた。

○取組内容②

- ・令和6年度後期保護者アンケートにおいて、「子どもは様々な食べ物に興味・関心をもつようになってきましたか」という項目において、肯定的な回答をする保護者の割合が96.5%であった。

- ・ほけんだよりとは別に、年10回「食育だより」を作成し、配布した。

- 「(5月)食育とは何なのか」

- 「(6月)夏の食事の気をつけるべきこと」

- 「(7月)夏野菜の効能」

- 「(9月)秋の旬の食材」

- 「(10月)かむことの大切さ、かみごたえのある食材」

- 「(11月)冬至について」

- 「(12月)お正月ならではの料理」

- 「(1月)寒さに負けない体をつくる」

- 「(2月)節分について」

- 「(3月)食育とは～振り返り～」

- ・園内で栽培、収穫した野菜や果物などを持ち帰る際、「作ってみたよ！食べてみたよ！カード」を配布し、家庭でどんな調理をしたかについて記入し、提出してもらった。

- 1学期**：ジャガイモ・タマネギ・オクラ・トマト・キュウリ・ゴーヤを収穫、持ち帰り

- いろいろな調理方法を紹介してもらうことができ、降園時や懇談会、終業式など保護者が来園する際に共有できるよう掲示した。クラスで担任がカードを紹介することで、幼児も、「おいしかったよ」と言いながら、友達に見せて回る姿があった。

- 2学期**：キュウリ・ピーマン・オクラ・ヒモトウガラシ・カイワレダイコン・ニンジン・マクワウリ・ナツメ・サツマイモを収穫、持ち帰り

- 作品展当日に掲示し、他の保護者にも見てもらう機会をつくった。未就園児園庭開放の際に、未就園児の保護者にも見てもらうことができた。多くの家庭での実践に、興味をもって見る保護者が多くあり、食についての発信につながった。

<p>3学期：カブ・ダイコン・ミズナ・クキブロッコリー・チンゲンサイを収穫、持ち帰りホームページに掲載し、保護者啓発をした。年間を通して、保護者に協力してもらったことで、幼児も友達に嬉しそうに見せ、一緒に調理をしたり、食べたりした感想を話す姿があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、大阪市の事業となった給食では、毎回、メニューや使っている食材を知らせ、幼児が進んで食べられるような声掛けを行っている。進級、入園当初、「これ食べられない」「これ、苦手」と言っていた幼児も、少しずついろいろな食材を食べてみようとするようになり、年度後半には、自分から食べ、完食しようとする姿が増えた。 ・8月の約1カ月間、西区役所区民ギャラリーで、食の取組として、園で栽培している夏野菜を幼児が製作したものと、保護者から提出していただいた「作ってみたよ！食べてみたよ！カード」を展示した。取組を地域の方々に広く知ってもらえる機会となった。 ・西区保健福祉センターの栄養士による幼児向けの三色食品群と食事のマナーについての講話を聞く機会をもった。保護者には、朝食の大切さについての講演会を実施した。保護者から栄養士への質問もあり、貴重な機会になった。 ・長期休業中、食べ物に関するカレンダーを作成した。 <p>夏季休業中は、「食べたよ！カレンダー」を配布した。朝食を食べたら/三色食品群を食べたら/苦手なものを食べたら、それぞれ色を塗るようにした。苦手なものを積極的に食べられるようになったと保護者から聞くことができた。</p> <p>冬季休業中は、冬の食べ物にちなんで「ふゆのたべものビンゴ」を実施した。おせち料理の名前を家族に聞く様子や、新たに食べられたものなど、食べ物に関心をもてた様子を保護者から聞くことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クキブロッコリー、ウスイエンドウ、スナップエンドウ、ソラマメ、ミズナ、チンゲンサイ、サニーレタス、テンノウジカブラ、ダイコン、カブ、タマネギ、ジャガイモを、子どもたちが植え、毎日水やりをしている。「先生、大きくなってきた！」「見て、こんなん（葉っぱ）」など、少しの変化や生長に気づき、教師や友達に知らせる様子から、興味や関心をもっていると考ええる。 ・3学期の保健指導では、学年に応じた食育を行った。5歳児は、三色食品群についての振り返りと食事のマナーについての指導を行った。子ども自身で考えることができるようゲーム的要素を取り入れたことで、昼食時、自分たちでも、「これは〇色だと思う」などの声が聞こえるようになった。 <p>4歳児は、三色食品群(赤・黄・緑)それぞれの説明を行い、カレーライスの食材(タマネギ・ニンジン・ジャガイモ・米・肉)がどの色に入るのか、子どもたちと考えながら分けた。その後、いろいろな食材のパネルについても、どの色か考えながら分け、楽しみながら取り組む姿があった。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>○取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態、興味や関心を教師が理解し、「大阪市就学前教育カリキュラム」を参考にして振り返りながら、その後の見通しや、環境構成や関わりなどの、教師の教育的意図をもった働きかけを、引き続き工夫していく必要がある。 <p>○取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「作ってみたよ！食べてみたよ！カード」について、園内だけでなく地域にも広く発信できるよう、引き続き、ホームページを活用していきたい。また、保護者が、いつでも手に取って閲覧できるように、整理してファイルにしたものを保健室前に設置する。 ・指導内容が幼児一人一人の身についていくように、保健指導や、担任と連携しての指導について一緒に検討し、より充実させていく必要がある。 ・今後も、園内での栽培や食育活動などについての保護者啓発の工夫を考え、保護者の協力を得ながら、取り組んでいきたい。

大阪市立九条幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○教職員アンケートで、「ゆとりの日の適切な設定や、負担軽減の工夫などにより、教職員が働きやすい環境を整備している」の項目について、肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。 ○教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 負担軽減、業務の効率化や操作技術習得に向けた取組を行う。 指標 ・ゆとりの日を設定する。(週 1 回) ・ホームページやメール配信システムなど、ICT を活用し、効果的な園運営を工夫する。(年 10 回)	A
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 研修会や講演会、他園参観等への参加、キャリアステージに応じた指標を用いて、各自で振り返りを行う。 指標 ・研修会や講演会、他園の研究保育に参加する。(年 10 回) ・研修会等の学びを共有する。(資料の配付・回覧等) ・「資質の向上に関する指標」を活用し、各自で振り返りを行う。(学期毎 3 回)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○教職員アンケートで、「ゆとりの日の適切な設定や、負担軽減の工夫などにより、教職員が働きやすい環境を整備している」の項目について、肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。 ○教職員アンケートで、「研修等への参加や振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。
【取組内容】について 取組内容① ・令和 6 年度後期の教職員アンケートにおいて、「ゆとりの日の適切な設定や、負担軽減の工夫などにより、教職員が働きやすい環境を整備している」という項目において、肯定的な回答をする教職員の割合が 100%であった。 ・週 1 回、ゆとりの日を設けるだけでなく、職員室のホワイトボードに「ゆとりの日」が視覚的にわかるように、大きな目印をつけ、朝の職員会議でも、教職員全員に周知徹底した。各々が意識できるように声を掛け合い、できるだけ協力して、どうしても定時を過ぎる場合は、違う日に各自、定時に退勤できるように心掛けた。その結果、「教員の一人当たり平均時間外勤務時間」の 4 月からの累計は、以下の表のような結果となった。

	教員の一人当たり平均時間外勤務時間 昨年度との比較
4月	4時間40分 増
5月	2時間12分 増
6月	4時間15分 減
7月	4時間51分 減
8月	2時間45分 減
9月	3時間03分 増
10月	3時間04分 増
11月	2時間31分 減
12月	3時間04分 減
1月	0時間17分 増

	教員の一人当たり累計平均時間外勤務時間 昨年度との比較
累計	0時間25分 減

教職員が意識することで、「教員の一人当たり平均時間外勤務時間」の累計平均は、昨年度より25分短くなった。ただ、大きな行事前などは、意識はしていても一人当たりの仕事の分担が多いため、勤務時間が長くなってしまう傾向にあった。

- ・ホームページは、各々の負担が少なくなるように、できるだけ、当番が保育の様子などをアップするようにした。また、声を掛け合って、アップする内容などを伝え合い、効率よく、保護者や地域に取組を発信できるようにしている。

- ・他園に、カブトムシの幼虫を分けてもらい、オンラインを利用して、幼児同士が顔を見ながらお礼を言えるようにした。お礼だけでなく、手を振りながら質問し合うことを楽しむ姿があった。ICTを活用し、普段関わることができない他園の幼児との交流をすることができた。

取組内容②

- ・令和6年度後期の教職員アンケートにおいて、「研修等への参加や振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」という項目において、肯定的な回答をする教職員の割合が100%であった。

- ・第3ブロック研究部の研究保育に3回参加し、保育を参観して研究討議で意見を出し合い、学びを深めた。6月には『幼稚園新任教員研修会』の研究保育を本園で実施し、保育内容の向上につながった。研究会全体会には、ハイブリッド型開催を活用し、現地参加、オンライン参加などで、全員が参加し、学びを共有した。また、全市主任会などで、他園の効率的な園運営や、ICTの活用などについて、情報交換をしたことで、自園の運営の参考になった。

- ・オンラインも活用し、できるだけ様々な研修会や講演会に参加するようにしている。他園の研究保育に参加できなかった教職員には、写真や映像などを用いて、保育や討議会の様子を共有できるような時間を設けて、自園の教育活動への参考にしたり、教材研究の機会にしたりした。研修会に参加した場合は、翌日以降の朝の職員会議や降園後などに、口頭または資料の配付や回覧で、内容を伝え合うようにしている。

- ・各々のキャリアに応じたキャリアアップシートを配布し、各自で振り返る機会をつくった。各々の目標や達成状況を記録することで、各々のキャリアステージに応じた指標を持ち、資質の向上につながった。

- ・2学期から導入された『コドモン』の研修を受け活用することで、業務の効率化を図った。園外保育の際の帰園時刻の変更を、素早く配信することができ、保護者にとっても

『コドモン』からの配信は見やすいようで、スムーズに連絡することができた。また、『教育活動についてのアンケート』を『コドモン』の『アンケート機能』を使ってとったことで、回答率も高く、自動で集計ができるので、その後のアンケート結果の活用もしやすかった。ただし、アンケートの項目が多くなると、回答率が低下する傾向も見えたので、今後、内容によって紙面でのアンケートとの併用もしていきたい。「ほけんだより」「食育だより」は、毎月『コドモン』で配信した。紙面での配布も併用しているので、より保護者への啓発につながった。

・「就学前教育カリキュラムパイロット園所 実践研究報告会」への参加は、就学前教育カリキュラムの活用について、改めて見直すきっかけとなった。就学前教育カリキュラムを参考にしながら、取組について振り返り、子どもの実態に合わせた保育を展開していけるよう検討して、週案や日案の作成、実践に役立てている。

次年度への改善点

○大きな行事などがあると、時間外勤務が増える傾向にあるので、見直しをもった保育、業務運営を心掛け、行事の在り方も見直していきたい。

○今年度、新しく導入された幼稚園保育補助システム『コドモン』の今後の活用も工夫していきたいと考えている。配布物をアップして紙面での配布を減らすなど、効率のよい方法を探っていく必要がある。